2022年３月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月9日

上 場 会 社 名　株式会社あさくま　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　7678　URL　https://www.asakuma.co.jp
代　表　者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）横田　優
問合せ先責任者　（役職名）取締役管理部長　（氏名）西尾　すみ子　（TEL）052(800)7781
四半期報告書提出予定日　2022年２月10日　配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

（百万円未満切捨て）

１．2022年３月期第３四半期の連結業績（2021年４月１日～2021年12月31日）

（１）連結経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	4,082	△18.8	△221	―	316	―	203	―
2021年3月期第3四半期	5,028	△27.1	△502	―	△431	―	△772	―

（注）　包括利益　2022年3月期第3四半期　203百万円（　―%）　2021年3月期第3四半期　△772百万円（　―%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
2022年3月期第3四半期	38.21	38.14
2021年3月期第3四半期	△144.74	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	4,123	2,555	62.0
2021年3月期	3,999	2,223	55.6

（参考）自己資本　2022年3月期第3四半期　2,555百万円　2021年3月期　2,223百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
2021年3月期	―	0.00	―	0.00	0.00
2022年3月期	―	0.00	―		
2022年3月期（予想）				―	―

（注）　直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無
2022年３月期の配当予想につきましては、未定としております。

３．2022年３月期の連結業績予想（2021年４月１日～2022年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円　銭
通期	5,375	△15.8	△274	―	351	―	20	―	3.76

（注）　直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有
※　詳細は、本日公表の「2022年3月期の通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　：　有

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規　　社（社名）　　、除外　１社（社名）株式会社竹若

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　有

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期３Ｑ	5,376,270株	2021年3月期	5,376,270株
②　期末自己株式数	2022年3月期３Ｑ	50,549株	2021年3月期	50,549株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期３Ｑ	5,325,721株	2021年3月期３Ｑ	5,340,486株

※　四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ．３「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… ２
（１）経営成績に関する説明 …… ２
（２）財政状態に関する説明 …… ３
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… ３
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… ４
（１）四半期連結貸借対照表 …… ４
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… ６
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… ６
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… ７
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… ８
（継続企業の前提に関する注記） …… ８
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… ８
（会計方針の変更） …… ８
（セグメント情報等） …… ８

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴い厳しい状況で推移しておりましたが、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種効果により新規感染者数が減少し、経済活動の回復に期待が高まっております。

外食産業におきましては、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の解除により移動や飲酒等の制限が緩和され、来店客数の増加が見込まれておりますが、新たな変異株の発生により経営環境は依然として先行き不透明な状況となっております。

このような状況の下、あさくまグループといたしましては、「お客様に食を通じて感動を提案するエンターテイメントレストラン」という不変的な考えのもと、今期は全社を挙げて、「経常利益15％の業態を皆で創る」という中長期目標に向かって、日々奮闘中でございます。その一つが「やっぱりあさくま」をテーマとした新たな商品開発であります。「やっぱりあさくま」は、原価率は高いもののボリューム感があり、なおかつリーズナブルな価格に設定した商品のことをいいます。その開発と改良の一例としては、現在は販売しておりませんが、「もりもりハンバーグ」は、１２０グラムのハンバーグの上に、様々な具を山のように盛りつけた商品でありますが、お客様より具が多すぎてハンバーグが小さく見えるというお声を頂いて、具の量は変えずハンバーグを１．５倍の１８０グラムにしました。「ぶつ切りステーキ」は、食べ応えのある２５０グラムのステーキに、また、「ビッグハンバーグ」は通常１５０グラムのところ倍の３００グラムのハンバーグに、それぞれサラダ、スイーツはもちろん、カレーやガーリックライスの食べ放題をセットにして、１，３８０円（税抜）というお客様のご要望に見合うリーズナブルな価格で、一部の店舗にて販売しております。既存店のメニューにおいては、今後新しい商品として高品質な原材料を使っているものの、なるべく販売価格に転嫁せず、あえて原価率を高くし、お客様により満足していただけるものを、開発してまいります。また、あさくま店舗の売りであるサラダバーにつきまして、このコロナ禍で、提供する方法を模索し一時期取り止めていたこともありましたが、小分けにしてのご提供や一人ずつのマイトングによる取り分け方法、また使い捨て手袋をご提供しての取り分け等を行ってまいりました。このサラダバーは、「あさくま」ならではの品揃え（常時１４種類、店舗のスペースにより若干の差異はあります）を行い、お客様にご満足いただける内容を常日頃少しずつ入れ替えつつご提供しております。今後は、サラダバー内のスイーツコーナーも一層の充実を図り、お子様だけではなく、大人の皆様にも喜んでいただける内容にしてまいります。これらの取組みによりお客様の「あさくまに行こう」という気持ちが増すことを願っております。もう一つの取組みとして、店舗においては、多くのパート・アルバイトによって運営がされておりますが、正社員も含め、従業員一人一人のモチベーションを上げるため、「自店を自分で創る」よう色々なアイディアを出させ、自店のみの商品やサービスの実験を行ってまいります。これにより、各店舗のカラーが出て、近隣の当社内の店舗間でも気兼ねなくお越しいただけるようにしてまいります。昨今、外食産業のパート・アルバイト不足が言われておりますが、あさくまグループにおいて、大きくフロア勤務とキッチン勤務に分かれている業務について、これを両方できる者を創ることにより、パート・アルバイト不足に対応していこう、と考えております。ゆくゆくはパート店長やパート・アルバイトの役職への登用も可能となり、働き方改革の一環になるものと考えております。長く安定した職場でモチベーションも高く働いていただくことにより、従業員の心の底からの笑顔をお客様に届け、お客様も笑顔でお帰りになられる店舗創りに邁進してまいります。とはいえ、まだまだ道半ばではありますが、10月の緊急事態宣言等解除後は来店客数も徐々に増えてきており、今期を通じて取り組んでおります損益分岐点の引き下げ効果もあり、当第３四半期連結会計期間においては営業利益が黒字化いたしました。

当第３四半期連結累計期間末現在における当社の店舗数は、直営店62店舗にＦＣ店５店舗を加えて67店舗、株式会社あさくまサクセッションの直営店は10店舗で、当社グループの総店舗数は77店舗（ＦＣ店５店舗を含む）となっております。

以上の結果、当社グループの当第３四半期連結累計期間における業績は、売上高が4,082,729千円（前年同四半期比18.8％減）、営業損失が221,068千円（前年同四半期は営業損失502,960千円）、経常利益が316,080千円（前年同四半期は経常損失431,329千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益が203,501千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失772,956千円）となりました。

（２）財政状態に関する説明

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて194,822千円増加し、2,710,032千円となりました。主な要因は現金及び預金で54,323千円、売掛金で136,021千円それぞれ増加したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて71,225千円減少し、1,413,369千円となりました。主な要因は建物及び構築物で31,675千円、差入保証金で37,388千円それぞれ減少したことによります。また、破産更生債権等812,892千円を計上しており、貸倒引当金を同額計上しております。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて123,597千円増加し、4,123,402千円となりました。

（負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて2,155千円増加し、1,295,746千円となりました。主な要因は短期借入金で150,000千円減少したことに対して、買掛金で88,441千円、未払法人税等で48,014千円それぞれ増加したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて210,172千円減少し、272,149千円となりました。主な要因は長期借入金で162,170千円減少したことによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて208,017千円減少し、1,567,896千円となりました。

（純資産）

純資産は、前連結会計年度末に比べて331,615千円増加し、2,555,506千円となりました。主な要因は利益剰余金で331,615千円増加したことによります。なお、2021年７月の減資により資本金が771,583千円減少し、その他の資本剰余金が771,583千円増加したため、資本金が90,000千円、資本剰余金が1,710,238千円となりました。

この結果、自己資本比率は62.0％（前連結会計年度末は55.6％）となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年３月期の連結業績予想につきましては、当第３四半期までの実績と足元の市場環境等の動向を勘案し、2021年６月24日に公表いたしました予想数値を変更しております。詳細につきましては、本日公表いたしました「2022年3月期の通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2021年３月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,825,078	1,879,402
売掛金	252,669	388,691
原材料及び貯蔵品	29,044	39,587
未収入金	363,593	329,639
その他	45,463	73,632
貸倒引当金	△640	△920
流動資産合計	2,515,209	2,710,032
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	624,475	592,800
その他（純額）	255,038	260,082
有形固定資産合計	879,514	852,882
無形固定資産		
その他	35,181	32,675
無形固定資産合計	35,181	32,675
投資その他の資産		
破産更生債権等	－	812,892
差入保証金	515,047	477,659
その他	59,851	55,152
貸倒引当金	△5,000	△817,892
投資その他の資産合計	569,898	527,811
固定資産合計	1,484,595	1,413,369
資産合計	3,999,804	4,123,402

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2021年３月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	346,619	435,061
短期借入金	400,000	250,000
１年内返済予定の長期借入金	71,570	83,880
未払法人税等	29,909	77,923
賞与引当金	13,000	6,879
株主優待引当金	16,130	5,854
訴訟損失引当金	―	38,421
圧縮未決算特別勘定	―	83,776
資産除去債務	61,787	6,766
その他	354,574	307,183
流動負債合計	1,293,591	1,295,746
固定負債		
長期借入金	357,830	195,660
資産除去債務	52,728	52,728
その他	71,763	23,761
固定負債合計	482,322	272,149
負債合計	1,775,913	1,567,896
純資産の部		
株主資本		
資本金	861,583	90,000
資本剰余金	938,655	1,710,238
利益剰余金	499,358	830,973
自己株式	△75,706	△75,706
株主資本合計	2,223,890	2,555,506
純資産合計	2,223,890	2,555,506
負債純資産合計	3,999,804	4,123,402

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2020年４月１日 至　2020年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2021年４月１日 至　2021年12月31日）
売上高	5,028,953	4,082,729
売上原価	2,114,245	1,766,075
売上総利益	2,914,707	2,316,653
販売費及び一般管理費	3,417,668	2,537,722
営業損失（△）	△502,960	△221,068
営業外収益		
受取利息及び配当金	754	16
助成金収入	35,119	525,770
その他	45,034	17,122
営業外収益合計	80,909	542,909
営業外費用		
支払利息	2,782	4,046
リース料	4,308	－
その他	2,187	1,713
営業外費用合計	9,278	5,759
経常利益又は経常損失(△)	△431,329	316,080
特別利益		
固定資産売却益	－	8,309
退店補償金収入	4,298	－
補助金収入	10,445	15,077
保険差益	－	83,776
資産除去債務履行差額	－	12,693
その他	3,445	2,256
特別利益合計	18,189	122,112
特別損失		
固定資産売却損	16,373	－
店舗休止損失	37,505	8,064
減損損失	189,036	－
店舗閉鎖損失	42,189	9,713
訴訟損失引当金繰入額	－	38,421
圧縮未決算特別勘定繰入額	－	83,776
その他	4,486	4,449
特別損失合計	289,591	144,424
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△702,731	293,768
法人税、住民税及び事業税	32,794	90,267
法人税等調整額	37,431	－
法人税等合計	70,225	90,267
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△772,956	203,501
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△772,956	203,501

四半期連結包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2020年４月１日 至　2020年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2021年４月１日 至　2021年12月31日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△772,956	203,501
四半期包括利益	△772,956	203,501
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△772,956	203,501

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

2021年６月25日開催の第48期定時株主総会において、資本金の額の減少について承認可決され、2021年７月30日にその効力が発生しました。この結果、資本金が771,583千円減少し、その他の資本剰余金が771,583千円増加したため、当第３四半期連結会計期間末において資本金が90,000千円、資本剰余金が1,710,238千円となっております。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号　2020年３月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第１四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、販売費及び一般管理費に計上していた支払手数料等相当額を、売上値引として売上高に計上しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第１四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第１四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第３四半期連結累計期間の売上高、売上総利益並びに販売費及び一般管理費が77,734千円それぞれ減少しております。なお、第１四半期連結会計期間の利益剰余金の期首残高に影響はありません。

収益認識会計基準第89-２項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号　2020年３月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第３四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自2020年４月１日　至2020年12月31日）

当社グループの事業セグメントは、飲食事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自2021年４月１日　至2021年12月31日）

当社グループの事業セグメントは、飲食事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。